

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」を学校の理念に掲げ、教職員・保護者・地域が一体となって、4つの力(人を大切にする力・自分の考えをもつ力・自分を表現する力・チャレンジする力)の育成に取り組み、令和7年度に創立20周年を迎えることができた。子どもたちは多くの地域の方から大きな愛情を受け育っている。一方、地域に住む児童数推移からは年々減少傾向にあることが明らかであり、令和10年度には全学年が単学級となる見込みである。また、学校選択制による児童数の増減割合は、令和6年度で-34.9%、令和7年度で-15.0%と児童数の増加が見込まれない状況であり、これまで同様、校区外または他都市から支援が必要な児童や不登校傾向にある児童の入学が増加傾向にあることを鑑みると、チーム大空として組織的に児童の指導支援を行うことが急務である。

特別支援学級児童の在籍比率令和6年度:15.8% 令和7年度:17.1% 令和8年度:20.5%

不登校傾向にある児童の在籍比率令和6年度:4.29(10/233) 令和7年度:3.60(8/222)

令和7年度「全国学力・学習状況調査」における国語科の平均正答率は、大阪市より2.0ポイント、全国より3.8ポイント下回った。また、平均無回答率においても、大阪市より3.1ポイント、全国より2.6ポイント高い結果となった。算数科の平均正答率は、大阪市、全国とも3.0ポイント下回った。特に平均無回答率において大阪市より4.6ポイント、全国より4.8ポイント高く、粘り強く課題を解決する力の定着が課題である。各教科の平均正答率における対全国比では、国語科で0.90(R6)から0.94(R7)、算数科で0.87(R6)から0.95(R7)、理科で0.86(R4)から0.92(R7)と向上している。また、国語科における平均正答率の全国比より「話す聞く」領域で1.2ポイント、「言葉の特徴」領域で1.1ポイント上回る結果となった。これは、令和6年度から重点的に取り組んできた「朝の学習の時間の充実」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究授業の充実と授業改善」「ICTの効果的な活用の促進」等の成果の現れである。一方、「書く」領域で-8.5ポイント、「読む」領域は-4.5ポイントと下回る結果となった。特に「我が国の言語文化」領域では-12.9ポイントと大きな開きが見られた。読書の時間や読み聞かせ等、本に触れる取組を体系的に進めていく必要がある。

こうした状況をふまえ、以下の3つの柱を軸に取組を進めていく。

◆3つの柱◆

① 安全・安心な教育環境の徹底 ―学校を「安心できる場所」に―

【行動の基本】 気づく → 共有する → すぐ動く

【具体】 ・小さなサインを見逃さない ・心の天気+日常観察の徹底
・学年会・夕会で確実に共有 ・いじめ／不登校は組織対応

【キーワード】 「チーム大空で子どもを育てる」「つながり続ける支援」

② 誰一人取り残さない学び ―「わかる・できる・楽しい」をすべての子どもに―

【重点】 ・基礎基本の定着(つまずきの見取り) ・ボリュームゾーンの底上げ
・学力課題層への継続支援

【授業づくり】 ・言語活動の充実 ・主体的・対話的な学び ・「なぜ？」を大切に

【めざす子ども】 考える → 伝える → 学び合う(深める)

③ 教育環境のさらなる充実 ―持続可能で質の高い学校へ―

【ICT 活用】 ・目的は「学びの質向上」 ・文房具のように使う

【データ活用】 ・見取り → 分析 → 改善 ・根拠ある指導へ

【働き方改革】 ・業務の精選・効率化 ・子どもと向き合う時間の確保

【組織づくり】 ・抱え込まない ・相談し合う ・学び合う

【合言葉】 すべては子どものために 一人で抱えず、チームで 同じ方向を向いて

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

(1)安全・安心な教育環境の実現(いじめへの対応、不登校への対応、安全教育の推進 等)

・「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

(全国学力・学習状況調査)

(2)豊かな心の育成(道徳教育の推進、インクルーシブ教育の推進、多文化共生教育の推進 等)

・「自分には、良いところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

(全国学力・学習状況調査)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(4)誰一人取り残さない学力の向上

(言語活動の充実、英語教育の強化、「主体的・対話的で深い学び」の推進)

・大阪市小学校学力経年調査におけるボリュームゾーンにあたる層の変化率を向上させる。

・全国学力・学習状況調査における学力に課題の見られる児童の対全国比の割合を減少させる。

(5)健やかな体の育成(体力・運動能力向上のための取組の推進 等)

・体力合計点の対全国比の割合を向上させる。(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)

【学びを支える教育環境の充実】

(6)教育 DX の推進(ICT を活用した教育の推進、データ等の根拠に基づく施策の推進)

・「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。(本市調査〔小学校学力経年調査〕)

(7)人勢の確保・育成としなやかな組織づくり(働き方改革の推進、教育の資質向上・人材の確保等)

・各校種における教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を減少させる。(学校園における働き方改革アクションプラン〈2026-2029〉より〔本市調査「システムによる自動集計」〕)

(8)生涯学習の支援(学校図書館の活性化、「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいて取組)

・「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。(本市調査〔小学校学力経年調査〕)

(9)家庭・地域等と連携・協働した教育の推進(教育コミュニティづくりと地域学校協働活動の推進)

・「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか」に対して、肯定的に回答する割合を向上させる。(全国学力・学習状況調査)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

(1)安全・安心な教育環境の実現(いじめへの対応、不登校への対応、安全教育の推進 等)

目標 1

・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(84.2%)以上にする。(本市調査〔小学校学力経年調査〕)

施策 1-1(いじめへの対応)

・小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(58.3%)以上にする。(本市調査〔小学校学力経年調査〕)

施策 1-2(不登校への対応)

・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(3.60)より減少させる。(本市〔生活指導に関する調査〕)

(2)豊かな心の育成(道德教育の推進、インクルーシブ教育の推進、多文化共生教育の推進 等)

目標 9

・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(75.5%)以上にする。

施策 2-2-11(キャリア教育の推進)

・小学校学力経年調査における「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(4)誰一人取り残さない学力の向上(言語活動の充実、英語教育の強化、「主体的・対話的で深い学び」の推進)

目標 16

・小学校学力経年調査における国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度(+1.9)より向上させる。

目標 17

・小学校学力経年調査における算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度(-3.4)より向上させる。

目標 18

・小学校学力経験調査における国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経験的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。

目標 19

・小学校学力経験調査における算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経験的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。

施策 4-1-21

・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(89.9)以上にする。

施策 4-2-22

・小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(73.4%)以上にする。

施策 4-3-24

・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(70.7%)以上にする。

(5) 健やかな体の育成(体力・運動能力向上のための取組の推進 等)

目標 25

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度(男子: 0.91 女子: 0.97)より向上させる。

施策 5-1-26

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(87.3%)以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

(6) 教育 DX の推進(ICT を活用した教育の推進、データ等の根拠に基づく施策の推進)

目標 28

・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65.0%以上にする。

(7) 人勢の確保・育成としなやかな組織づくり(働き方改革の推進、教育の資質向上・人材の確保等)

目標 34

・教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の 1 カ月あたりの平均時間外勤務時間を21時間以下とする。

(8) 生涯学習の支援(学校図書館の活性化、「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)

施策 8-2-35

・小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度(66.2%)以上にする。

(9) 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進(教育コミュニティづくりと地域学校協働活動の推進)

・「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか」に対して、肯定的に回答する割合を前年度(88.0%)以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--